

4番(川上晋平)登壇 私は、自由民主党福岡市議団を代表して、本議会に提案されております平成21年度の条例案、予算案及び一般議案について原案に賛成し、討論を行うものであります。

平成21年度におきましては、未曾有の経済危機への対応はもろろんのこと、この危機によって改めて認識されましたように、グローバル化の進展によってますます激変することが予測される社会情勢の中で、次世代を担う子どもたちを安心して生み育てることができ、市民一人一人が真に豊かさを実感できる都市づくりへの取り組みが今まで以上に求められております。また、本市の将来に大きな影響を与える重要な施策等について方向性を明確に示し、決定していく時期も迎えているところでもあります。このようなことから、平成21年度における本市政策のあり方は例年に増して重要な意義を持つものであり、今後とも、議会においても十分に議論をしていく必要があると考えているところであります。

そこで、我が会派が特に重要と考える事項について、意見と要望を述べさせていただきます。

まず、現下の経済情勢への対応についてであります。

金融、経済危機の影響は緩むことなく、本市経済はさらに厳しさを増しております。特に本市の経済を支えながら、それぞれ経営基盤は脆弱である中小企業にとっては極めて深刻な影響を与えております。本市予算の編成においては、国の経済対策に対応しての雇用創出対策や市独自施策として商工金融資金の新規貸付枠の大幅増などの対策が示されておりますが、いまだ景気回復の兆しが見られない状況の中で、さらなる経済対策を的確に打ち出さなければならぬのではないかと考えます。政府においても新たな対策が検討される中、このような国の動きと連動し、時期を失することなく本市としての対応に努められるよう強く要望いたします。

また、緊急的、短期的な対策だけでなく、中長期的な視点に立ち、本市経済の基盤をさらに強化し、将来の都市の発展に向けた布石をしっかりと打つという観点から、投資すべきところには投資するという果敢な行政運営を行っていかれるよう、あわせて要望いたします。

次に、留守家庭子ども会事業についてであります。

留守家庭子ども会事業につきましては、保護者の経済的事情等を考慮しながら受益者負担制度を堅持して一定の財源を確保し、事業の拡充を願う市民の声に真摯に対応していくこととされたところであります。児童の健全育成と保護者の就労支援に資するこの事業は、市民生活にとって大変重要な事業の1つであります。保護者の切実な期待に対して早急にこたえていくために、対象児童の学年拡大について早期実現を図るとともに、老朽化、狭隘化している施設の計画的な整備については、解消年度の前倒しに努めるよう強く求めます。

次に、福岡空港の将来対応方策についてであります。

現空港は市街地にあることから、周辺の航空機騒音問題やこれに伴う運用時間の制約、都心部における建築物の高さ制限の問題、また一たび事故が発生すれば、多数の住民を巻き込む大事故につながりかねない危険性など、さまざまな問題を有しております。このような問題を解消し、市民の安全、安心を確保するべきであること、そして将来を見据えた都市の発展、国際中枢都市としての社会基盤のあり方を考慮し、我が会派は新空港の整備に向けた本市の意思を明確にすべきであると訴えてまいりました。

吉田市長は、新空港については要、不要の議論をせず、とりあえず国、県と連携して行われている総合的な調査の推移を見守るというスタンスをとり続けてこられました。そして、近日中に行われるとされる知事の意思表明と歩調を合わせて地元としての意向を表明されようとしております。地元としての意向であれば、市長みずからの意思をあらかじめ明らかにした上で公に議論をして固めていくべきであったと考えますが、このような市長の姿勢に対しては極めて疑問を感じています。

麻生福岡県知事は、昨日、県議会の正副議長と主要4会派の代表に対して空港に対する考え方を伝えたとのことですが、吉田市長におかれましては市民に対しても、市民の代表である議会に対しても全く説明がありません。既に時期を失しているかもしれませんが、市長としての意思を今すぐ明らかにするとともに、今後の福岡空港の将来方策の検討に当たってはみずからの意見を明確にし、公の場において十分議論を尽くされるよう強く要望いたします。

次に、新市立病院の整備についてであります。

新病院の整備に関しましては、昨年(平成20年)の第4回定例会において、「本市が担うべき医療機能は子どもの医療機能、高度医療に特化した成人医療機能を併せ持ち、子どもから高齢者まですべての人が生涯を通じて安心して暮らせるよう、医療を通じて広く市民全体に貢献すべきである。」と決議されたところであります。こども病院の老朽化への対応などの観点からも、早期のこども病院移転に取り組むとともに、決議の内容を確実に実現化するためにも、成育医療と将来の高度先進機能をあわせ持つ病院の整備を目指し、市民病院の統合、アイランドシティへの移転を推進されるよう強く要望します。

次に、透明性の高い市行政の運営についてであります。

昨年6月に策定されました福岡市2011グランドデザインの中の行政改革プランにおいては、市役所の目標像として、市民から信頼され、市民と向きあう市役所、風通しのいい市役所が掲げられているところであります。しかしながら、昨今の本市行政運営のあり方をかんがみますと、市立病院統合移転の検証・検討に関する議会審議における正確さを欠く答弁や指定管理者の選定に当たっての選考過程の不透明さなど、透明性を求められるべき市行政の運営のあり方に対して市民の信頼を大きく損ない、行政への期待に不安を抱かせる出来事が起きております。政策を着実に実施、推進することだけが行政に求められていることではありません。言うまでもなく、その意思決定から実施に至るまでさまざまな過程における情報公開、市民参画と共働、そして議会や市民との対話と議論を通じて透明性の高い行政運営を行っていくことが不可欠であり、これこそが行政改革の最も重要な視点であります。早急に市民の信頼を損なうことのない透明性の高い行政運営へと転換されるよう強く求めます。

最後に、財政運営についてであります。

冒頭にも述べましたが、現下の経済情勢において景気の減速に対応した的確で積極的な経済対策を早急に実施する必要があるとともに、本市の経済基盤を一層強化する観点からの投資についても、怠ることなく、しっかりと行っていくことが求められます。

一方で、さらに市税収入の大幅な減収が危惧され、極めて難しい財政運営を行っていく必要があります。財政運営に当たっては、単なる節減や節約によって収支を合わせ、十分な事業効果が得られない中途半端な投資を行うようなことのないよう、さらなるスクラップ・アンド・ビルドを推進し、メリハリのある効果的な施策を展開されることを改めて求めます。

以上、特に重要と考える点について指摘と要望をいたしました。市長におかれましては我が会派が代表質問を初め、総会、分科会などで述べてきた事項につきましても十分対応されますよう強く要望する次第であります。

これをもちまして、自由民主党福岡市議団を代表しての討論といたします。